

# 中学校における「ダンス」領域を手がかりにした 教科「保健体育」と特別活動「体育大会」の接続に関する取組事例

梶ちか子<sup>1)</sup>, 佐藤 豊<sup>2)</sup>, 金高宏文<sup>3)</sup>

Chikako KAKOI<sup>1)</sup>, Yutaka SATO<sup>2)</sup>, Hirofumi KINTAKA<sup>3)</sup>

## Abstract

Among "special activities" in junior high school, "health and safety and physical education events" in "school events" are closely related to "health and physical education." Because of the differing goals and contents of "special activities" and "health and physical education", it is necessary to emphasize the relationship between the two, but the aim should be clear. However, in "the domain of dance" in physical education, the majority of dance experiences in school education are not "classes" but "physical education festivals" (Chino, 2017). Therefore, it is highly possible that the group performance of the athletic meet and its goals and contents will be vague. Therefore, in this study, we examined "the domain of dance" to understand the relationship between "health and physical education" and "special activity". Furthermore, this study attempted to clarify the effect and the subject from the interview to the teacher. The subjects were the physical education class of "dance" at a junior high school in Kagoshima prefecture and the dance activity in physical education competition. In junior high school A, dance programs at physical education competitions were created by using the learning results of the "dance" class in the first and second grades. Furthermore, in the "dance" class in the third grade after the physical education competition, the teaching contents of "physical education" were developed using the dance programs in the physical education competition, which contributed to the learning contents. The case of junior high school A can be presented as a model case for "health and physical education" and the special activities in "health and safety and physical education events."

**Keywords:** health and physical education, special activities, perspectives and ideas, curriculum management, physical education competition, dance

## 要約（和訳）

中学校における「特別活動」のうち、「学校行事」の内容である「健康安全・体育的行事」は、教科「保健体育」との関連が深い。「特別活動」と教科「保健体育」の目標や内容は異なるため、双方の関連性は重視しつつも、そのねらいは明確でなければならない。しかし、体育分野の「ダンス」領域については、学校教育でのダンス経験は「授業」ではなく「体育祭」が多いとの報告からも（茅野, 2017）、体育大会の集団演技と目標や内容があいまいになりやすい可能性が高い。そこで本研究では、教科「保健体育」と「特別活動」の関連について「ダンス」領域を手がかりに取り組んだ事例を紹介し、その効果や課題を教員へのインタビューより明らかにすることを目的とした。対象は、鹿児島県内のA中学校の「ダンス」の体育授業の実践と体育大会でのダンスに関する取組とした。A中学校では、第1学年及び第2学年における「ダンス」授業の学習成果を生かし、体育大会でのダンス作品が創作されていた。さらに、体育大会後の第3学年における「ダンス」の授業では、体育大会でのダンス作品を生かしながらも「体育」の指導

<sup>1)</sup> 鹿屋体育大学 スポーツ人文・応用社会科学系

<sup>2)</sup> 桐蔭横浜大学 スポーツ健康政策学部

<sup>3)</sup> 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系

内容が担保されており、学習内容の深化が見られた。このようなA中学校の取組事例は、教科「保健体育」と特別活動「学校行事：健康安全・体育的行事」の接続のモデルケースとして提示できると考えられる。

キーワード：保健体育，特別活動，見方・考え方，カリキュラム・マネジメント，体育大会，ダンス

## I. 問題の所在

### 1. 平成29年告示の学習指導要領における「特別活動」と「保健体育」の「見方・考え方」

平成28年12月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（以下、答申）」では、基本的な理念を「社会に開かれた教育課程の実現」とし、次期学習指導要領の方向性として「①学習指導要領の枠組みの見直し（目指すべき資質・能力を「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の3つに整理）」「②カリキュラム・マネジメントの実現」「③主体的・対話的で深い学びの実現」の3つの柱が示された。

答申では、「特別活動」においても、中央教育審議会教育課程部会内に設置された「特別活動ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（平成28年8月26日）の内容を踏まえて、現行学習指導要領の成果と課題が示された。中でも課題として、「各学校で特色ある取組が進められる一方で、各活動において身に付けるべき資質・能力は何なのか、どのような学習過程を経ることにより資質・能力の向上につながるのかということが必ずしも意識されないまま指導が行われてきた実態も見られる。特別活動の時間において育成する資質・能力だけでなく、特別活動が各教科等の学びの基盤となるという面もあり、教育課程全体における特別活動の役割、機能も明らかにする必要がある」と述べられている。平成29年告示の学習指導要領では、「特別活動」の具体目標を、育成を目指す前述した3つの柱（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」）から整理して示された（文部科学省，2018a）。

また、平成29年告示の学習指導要領では、各教科の教科目標に「見方・考え方」が記載された。特別活動における「見方・考え方」は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」であるとされ、「各教科等における『見方・考え方』を総合的に活用して、集団や社会における問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に関連付けること」と示された（文部科学省，2018a）。

一方、「保健体育」においても他の教科と同様に、平成29年告示の学習指導要領にて「見方・考え方」が示され、中学校体育分野においては、「運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに、体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適正等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること」と示された（文部科学省，2018b）。体育分野では、実際の体育授業を通して、この体育の見方・考え方を核としながら、3つの育成すべき資質・能力を統合し、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、子ども達の体育の見方・考え方が一層深まるように指導していくことが重要となる（友添，2017）。

各教科等と特別活動の関連としては、「各教科等で獲得した資質・能力などが、集団活動の場で総合的に生かされなければならない。逆に各教科等で育成された資質・能力は、特別活動において、実生活上の課題解決に活用されることによって、思考力、判断力、表現力は鍛えられ、知識や技能は実感を伴って体得したり、各教科等を学ぶ意義の理解が深まったりするなど、より確かなものとなっていく」と示された（文部科学省，2018a）。したがって、教科「保健体育」と特別活動においても、各教科の目指すべき資質・能力を保証しな

がら, 双方の関連をカリキュラム・マネジメントの視点から整理し, 子ども達が様々な場面において「主体的・対話的で深い学び」を実現できるよう, 工夫を行う必要があると考える。

## 2. 特別活動「学校行事」と教科「保健体育」における「ダンス」領域の取り扱いの課題

中学校における特別活動を構成する「学級活動」「生徒会活動」「学校行事」のうち, 「学校行事」においては, 「健康安全・体育的行事」が含まれ, とりわけ教科「保健体育」との関連が深い。しかしながら, 先述した通り, 「特別活動」と教科「保健体育」の目的や指導内容は異なるため, 双方の関連性は重視しながらも, 「特別活動」と教科「保健体育」の教育のねらいは明確でなければならない。

中でも教科「保健体育」の体育分野「ダンス」領域については, 「運動会」や「体育大会」といった「特別活動」の「学校行事: 健康安全・体育的行事」で披露するダンス・集団演技との関連について, 問題視されている。小学校・中学校・高等学校の学校体育担当指導主事を対象とした「ダンス」の授業内容についての調査(藤井, 2017)において, 「創作ダンス」「現代的なリズムのダンス」「フォークダンス」共に, 「体育祭や地域で踊る」との回答が3割前後存在した。また, 教員養成系大学の学生を対象とした調査において, 学生自身のダンス経験についての回答では, 「授業」ではなく「運動会」や「体育祭」が多く(茅野, 2017), 沖本(2016)も, 「運動会・体育祭での集団演技・パフォーマンスを行うことでダンスの授業を行ったとみなし, 学習指導要領の中で示された学習すべき事柄があまり指導されていない現状があるということを耳にする」と問題点を述べている。新田・千住(1995)の小学校を対象とした報告においても, 「日常の授業の中では表現運動の指導を行っていないが, 運動会で表現運動を実践することによって, 表現運動の指導に換えている指導者や学校も多い」と指摘している。また,

吉川・堀(1993)や青木(2012)は, 表現運動の授業内容と運動会での集団演技としての作品とのつながりの悪さを挙げている。青木(2012)は, 表現運動の授業は, 「そのものになりきって」「踊る楽しさや喜びを味わう」という技能目標が存在し, 「友達を他者として認識し, かかわり方を体験しながら自己が変化し成長する」という役割を見いだせるものの, 運動会作品を意識した時には, 保護者をはじめとした, 観ている者が評価しやすい「揃っている, 揃っていない」という価値観に沿うように作品に手を加えていると述べている。

以上の報告から, 中学校における教科「保健体育」の「ダンス」領域については, ①ダンスの指導内容が保証されるための「ダンス」の授業時数の確保, ②学習指導要領で示された内容の指導の徹底, ③「学校行事: 健康安全・体育的行事」のダンス・集団演技との接続の工夫等が課題として考えられる

## II. 目的

筆者は, このような中学校現場における教科「保健体育」と特別活動「学校行事」の接続や学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の在り方について, 体育分野「ダンス」領域の授業における地域指導者(2014年度より鹿児島県教育委員会が行う地域指導者の派遣事業)として検討する機会を得た(梶, 2017)。

本研究は, 学習指導要領で示す教科「保健体育」と特別活動の接続について体育分野「ダンス」領域を手がかりに取り組んだ筆者の事例を紹介するとともに, その効果や課題について教員へのインタビューより明らかにすることを目的とした。具体的には, 鹿児島県内のA中学校の教科「保健体育」における体育分野「ダンス」領域の授業実践(以下, 「ダンス授業」)と体育大会でのダンス(以下, 「行事ダンス」)に関する取組から, 教科「保健体育」の体育分野「ダンス」領域と「特別活動」の「学校行事: 健康安全・体育的行事」の

接続について考察する。

### Ⅲ. 方法

#### 1. 事例提示の内容

A 中学校における取組について、以下の内容に関する資料やインタビュー調査により明らかになった事項を提示した。

- ① A 中学校における「ダンス授業」の指導計画
- ② A 中学校における「行事ダンス」に向けての取り組みについて
- ③ 体育大会後の「ダンス授業」について

#### 2. インタビュー調査

インタビューは、A 中学校の保健体育科教員 1 名（男性）を対象に行った。対象者は、教師 20 年目で、A 中学校には調査年度に異動してきたばかりの 1 年目で、専門競技はバレーボールであった。なお、対象者には、研究目的を伝え調査の同意を得た。また、得られた結果は本研究の目的のみに使用し、個人情報として外部に漏れないよう配慮すること、インタビューは拒否する権利を保持し拒否によって何らかの不利益を被ることがないこと、およびインタビューの途中で中止できることを文書および口頭で伝えた上で実施した。なお、本研究は、鹿屋体育大学倫理審査小委員会による承認を受けて実施した。

#### 3. 調査手順

インタビューは、事前に作成したインタビューガイドに基づき半構造化インタビューを実施した。使用した調査項目を表 1 に示す。

#### 4. メンバーチェック

データの信頼性を高めるため、3 名の分析者によりメンバー・チェックを行った。分析者は、筆者（体育系大学で舞踊教育・体育科教育研究に 9 年従事）と、体育科教育学研究者（高等学校教員 14 年、教育委員会 6 年、文部科学省スポーツ青少年局教科調査官を経て、大学にて体育科教育学研究に 8 年従事）、スポーツ運動学研究者（体育系大学でコーチ学・運動学研究に 30 年従事）であった。インタビューのテキスト化はすべて筆者が行い、テキスト及びカテゴリーの分類については、筆者とスポーツ運動学研究者で議論を行い、内容について完全に一致するよう整理・集約を行った。その後、得られた結果について、先に挙げた体育科教育学研究者に客観的な意見を求め、再度検討した。

### Ⅳ. A 中学校における「ダンス授業」と「行事ダンス」の実践事例及びインタビュー結果

#### 1. A 中学校における「ダンス授業」の指導計画

A 中学校では、第 1 学年から第 3 学年まで、「ダンス」領域の授業を年間約 12 時間ずつ配当し（表 2）、男女別修で行われている。東京都公立中学校の平成 24 年度の単元時数を調査した中村（2009）の報告では、学年や男女別に差があるものの、平均 7 時間から 9 時間程度であった。また、2016 年度に全国の中学校を無作為抽出して行われた調査（薄井ほか、2017）においても、年間 10 時間以上配当する中学校は約 3 割程度であることを考慮すると、A 中学校のダンス授業配当時間数は

表 1 インタビュー調査項目

1. 「ダンス」領域の授業内容について教えてください。
・第 1 学年から第 3 学年の「ダンス」領域の内容はどのように系統化が図られていますか。
・体育大会のダンスを「ダンス授業」へどのように生かされましたか。
・「ダンス授業」を通して、どのような成果と課題が見えましたか。
2. 2018 年度の体育大会のダンス（行事ダンス）に関わる取組について教えてください。
・授業時間数は何時間程度でしたか。
・作品創作と作品練習は、どのように指導されましたか。
・この取組を通して、どのような成果と課題が見えましたか。

表2 「行事ダンス」に向けての取り組みと「ダンス授業」の流れ

学期	1 学期	(夏季休業期間)		2 学期														
	特別活動			ダンス		特別活動	ダンス											
時間数	時数	前半	後半	時数		時数												
	1			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
第1 学年	ダンス 実行委員 選出		行事ダンス の練習	行事ダンス の練習		体 育 大 会	創作ダンス											
第2 学年	ダンス 実行委員 選出			行事ダンス の練習			現代的なリズムのダンス											
第3 学年	ダンス 実行委員 選出	行事ダンス の創作	行事ダンス の練習	行事ダンス の練習			現代的なリズムのダンス											

表3 中学校3年間の「ダンス」領域の指導内容

学年	ダンスの種類	主な授業内容	評価規準			
			知識	及び	技能	思考力, 判断力, 表現力等
第1 学年	創作ダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>円形コミュニケーション, ペアストレッチ</li> <li>対極の動きの連続(走る-止まる)</li> <li>もの使う(新聞紙)</li> <li>スポーツいろいろ</li> <li>作品発表</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスの特性について, 学習した具体例を挙げている</li> <li>②ダンスの由来について, 学習した具体例を挙げている</li> <li>③ダンスに関連して高まる体力について, 学習した具体例を挙げている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①テーマにあったイメージをとらえて, 動きを構成することができる</li> <li>②動きに変化をつけて, 即興的に表現して踊ることができる</li> <li>③変化のあるひとままとまりの表現にして踊ることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①自分の興味・関心に合ったテーマや踊りを設定している</li> <li>②自己やグループの課題に応じた練習方法を選んでいる</li> <li>③学習した安全上の留意点を仲間と学習する場面にあてはめ, 仲間に伝えている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスに積極的に取り組もうとしている</li> <li>②仲間の学習を援助しようとしている</li> <li>③一人一人の違いに応じた表現や役割を認めようとする</li> <li>③健康・安全に気を配っている</li> </ol>
第2 学年	現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>アフタービート(十五夜さんの餅つき)</li> <li>ロックの弾み, ヒップホップの縦のりの動き方</li> <li>グループごとに, ふれあいリズムダンスコンクール規定曲のアレンジ</li> <li>作品発表</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスの特性について, 学習した具体例を挙げている</li> <li>②表現の仕方について, 学習した具体例を挙げている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全身でリズムに乗って弾んで踊るための動きができる</li> <li>②ロック・ヒップホップのリズムの特徴をとらえた動きができる</li> <li>③変化のある動き(ストップ動作)を組み合わせて, リズムに乗って自由に踊ることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①仲間やグループの課題や出来栄を伝えている</li> <li>②話し合う場面やグループへの関わり方を見付けている</li> <li>③仲間とともに楽しむための表現や交流の方法について仲間に伝えている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスに積極的に取り組もうとしている</li> <li>②話し合いに参加しようとする</li> <li>③分担した役割を果たそうとしている</li> <li>④健康・安全に気を配っている</li> </ol>
第3 学年	現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>体育祭のダンスをグループでアレンジする</li> <li>メリハリを重視し, 全身でダイナミックに踊り, 空間構成を工夫して踊り込む</li> <li>作品発表</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスの名称や用語について, 学習した具体例を挙げている</li> <li>②踊りの特徴と表現の仕方について, 学習した具体例を挙げている</li> <li>③運動観察の具体的方法を挙げている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全身でビートに合わせて弾んだりして踊ることができる</li> <li>②リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ, 動きに変化をつけて踊ることができる</li> <li>③群の構成を工夫してまとまりをつけて踊ることができる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①よい動きや表現と自己や仲間の動きや表現を比較して, 成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている</li> <li>②ダンスの特徴に合った踊りの構成を見付けている</li> <li>③話し合う場面や合意形成するための関わり方を見付け, 仲間に伝えている</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①ダンスに自主的に取り組もうとしている</li> <li>②互いに助け合い教え合おうとしている</li> <li>③自己の責任を果たそうとしている</li> <li>④健康・安全を確保している</li> </ol>

多いと考えられる。第1 学年では「創作ダンス」, 第2 学年では「現代的なリズムのダンス」, 第3 学年では「現代的なリズムのダンス」を主に取り上げ, 指導内容については表3のように重点化を図っていた。なお, A 中学校では, 平成26年度より, 鹿児島県教育委員会が行う地域指導者の派遣事業を活用し, 地域指導者(筆者)が授業サポートを行い(梶, 2017), 授業の充実を図っている。

地域指導者(筆者)は, 「ダンス授業」においてサポートは行うが, 体育大会における「行事ダンス」については関与していない。

## 2. A 中学校における「行事ダンス」に向けての取り組みについて

A 中学校では, 体育大会を「学校行事: 健康安全・体育的行事」の1つとして位置づけ, 「体育

的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けるようにする」「運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする」「運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う」をねらいとして活動していた。

「行事ダンス」については、1学期に「特別活動：学級活動」の時間を活用し、体育大会のダンス実行委員を全学年各クラス男女3名ずつ選出していた。ダンス実行委員の第3学年の生徒たちは、夏季休業期間を使って、使用曲を選択し、作品創作に取り組んだ。夏季休業期間後半に、ダンス実行委員の第3学年の生徒たちから第1学年・第2学年の生徒たちに作品の振付を伝え、新学期に入って各クラスの「ダンス授業」時（2時間）に、クラス全員に振付を教えた（表2）。この2

時間の「ダンス授業」では、特別活動の「学びに向かう力、人間性等」の「運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う（学びに向かう力、人間性等）」という目標に繋がられるよう、教師は、第1学年・第2学年については、「学びに向かう力、人間性等」の「ダンスに積極的に取り組もうとしている」「健康・安全に気を配っている」の2項目について、第3学年については、「ダンスに自主的に取り組もうとしている」「健康・安全を確保している」の2項目について、指導と評価を行うようにした。

### 3. 体育大会後の「ダンス授業」について

第1学年・第2学年は、表3の通り、「創作ダンス」と「現代的なリズムのダンス」を実施し、第3学年については、「現代的なリズムのダンス」

表4 インタビュー結果

授業	カテゴリー	インタビュー詳細
ダンス授業	担当時間	・「ダンス授業」は、各学年12時間の配当で、うち「行事ダンス」の練習が2時間である。もっと「ダンス授業」の時間が必要であるとも感じるが、現状でも、「球技」等の他の領域の時間数の制限が出ている
	指導体制	・指導内容の重点化について等、ダンスを専門とする地域指導者と相談できる体制があり、授業についても役割分担及び協力体制がとれるのはありがたい
	中学校第1学年から第3学年の「ダンス」領域の指導内容	・各学年、男女別修で行われている ・小学校からの継続を踏まえて、第1学年の「創作ダンス」ではテーマにあったイメージをとらえて動きを構成することをねらいとしているが、自由に踊る楽しさを生徒に実感させることや、踊る恥ずかしさの払拭に役立ち、第1学年で「創作ダンス」に取り組ませるのは適切であると考えている ・第2学年では、生徒の興味関心も高い「現代的なリズムのダンス」に取り組ませ、「弾み」や「縦のり」といった動き方の基本をもとに、自由にリズムに乗って踊る楽しさを重視しつつ、グループで1作品を完成させる体験をさせている ・第3学年では、体育祭のダンスをもとに、「現代的なリズムのダンス」を実施しているが、3年間の「ダンス」領域の総まとめとしての内容となっている
	成果	・第1学年及び第2学年の授業経験が第3学年での行事ダンスの創作活動に繋がっている ・第2学年終了時には、ある程度、自分たちでダンス作品を創作する力が身についている ・第3学年の「ダンス授業」では、「行事ダンス」の動きを基本として、教員側で新たに指導した内容を活かしながら、さらにグループごとに動きを発展させ、オリジナリティーの高い作品を創作できている
	課題	・各学年、男女別修で実施しているため、女子クラスはスムーズに作品創作が進むものの、力強い動きやスピーディーな動きに欠け、男子クラスはグループ活動において意見がまとまりにくい傾向がある。 ・体育大会前の「ダンス授業」では、ダンス実行委員からダンスの振付を覚えることが主となり、ダンス実行委員とその他の生徒との双方向のやり取りが生まれていない

行事ダンス	配当時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の「特別活動」の時間に、ダンス実行委員を選出</li> <li>・夏季休業期間前半に中学校第3学年のダンス実行委員を中心に「行事ダンス」を創作.</li> <li>・夏季休業期間後半に中学校第3学年のダンス実行委員が第1学年及び第2学年のダンス実行委員にダンスの振付を伝えていた</li> </ul>
	体育大会の指導内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育大会全体を通して、「体育的な集団活動の意義を理解し、規律ある集団行動の仕方などを身に付けるようにする」「運動することのよさについて考え、集団で協力して取り組むことができるようにする」「運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う」をねらいとし、行事ダンスの取り組みにおいては、日頃の学習成果の学校内外への公開・発表と、特に「運動に親しみ、体力の向上に積極的に取り組もうとする態度を養う」を重点化して指導した</li> <li>・「行事ダンス」の創作、練習に関しては、生徒たちの主体性を重視し、教員は助言を中心に行った.</li> </ul>
	成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行事ダンス」は、第1学年時に学習した「テーマにあったイメージをとらえて動きを構成する」をもとに、第2学年で学習した現代的なリズムのダンスの「弾み」や「縦のり」の動きを入れながら、変化のある動きを組み合わせたものであった.</li> <li>・ダンスとしては、生徒が一斉に同じ動きを踊る作品となっていたが、迫力があり見栄えのするものであった.</li> </ul>
	課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「行事ダンス」の創作活動が、第3学年のダンス実行委員の女子が中心となっていた.</li> </ul>

の「リズムの取り方や動きの連続のさせ方を組み合わせ、動きに変化をつけて踊ること」「リズムや音楽に合わせて、独自のリズムパターンや動きの連続や群の構成でまとまりを付けて踊ること」等の指導内容を保証しながらも、体育大会で踊った作品を、グループごとに、さらに発展させる活動を主に取り組んでいた。

#### 4. インタビューの結果

半構造化のインタビューの結果を表4に示す。「ダンス授業」については、「配当時間」「指導体制」「第1学年から第3学年の『ダンス』領域の指導内容」「成果」「課題」の5つのカテゴリー別にインタビュー結果をまとめた。「行事ダンス」は、「配当時間」「体育大会の指導内容」「成果」「課題」の4つのカテゴリー別にインタビュー結果をまとめた。

#### V. 考察

A 中学校においては、第1学年と第2学年で「行事ダンス」の練習2時間を除く、10時間分を「創作ダンス」と「現代的なリズムのダンス」に担当していた。指導内容を体系化し、保健体育科

教員を T1、地域指導者を T2として、授業の充実が図られている結果として、保健体育科教員は「生徒たちは第2学年終了時には、ある程度、自分たちでダンス作品を創作する力が身につけている」と感じていた。さらに、「この2年間の授業があるからこそ、第3学年のダンス実行委員が中心となり、体育大会でのダンスを創作することができている。体育大会のダンスでは、中学校1・2年時で学んだ内容が活かされている。」という発言からも、生徒たちがダンス授業で学んだことを発展させ、体育大会のダンスに確実に接続されている様子が伺える。

小学校の先行研究においては、表現運動の授業内容と運動会での集団演技としての作品との接続に関して課題が挙げられていた(吉川・堀, 1993; 青木, 2012)。青木(2012)は、運動会の作品を観る保護者の視点として、マスゲームのイメージを強く持ち、揃っている美しさや音楽のリズムに合っていること、ミスなく踊っているかどうか等を観ていると述べている。中学校では、特に非定形(三浦, 1984)である「創作ダンス」や「現代的なリズムのダンス」は、「イメージやリズムをもとにした自由なダンスが特徴である(文部

科学省, 2013)」ため、授業内で発表される作品は、全員が最初から最後まで同じ動きをするわけではないものが多く出現する。従って、中学校の体育大会における保護者の視点が、先行研究の小学校の運動会の作品をみる保護者の視点と同様であると仮定すると、授業内で発表した作品をそのまま体育大会の集団演技で披露すると、「揃っていない」「リズムに合っていない」「どの動きが良い(正しい)のかわからない」等の声が挙がる可能性が高いと考えられる。

今回のA中学校の取組は、第3学年のダンス実行委員の生徒たちが、第1学年・第2学年で受講した「ダンス授業」の経験を活かして、体育大会用のダンス作品(行事ダンス)を創作していた。その内容は、第1学年時で学習した「テーマにあったイメージをとらえて動きを構成する」を根本に置きながら、第2学年で学習した現代的なリズムのダンスにおける「弾み」や「縦のり」の動きを随所に入れながら、変化のある動きを組み合わせ合わせたものであった。また、ダンスとしては生徒が一斉に同じ動きを踊る作品となっていた。その意味で、体育大会の集団演技としての作品としては、保護者の視点にある程度合致しているものであったと推察された。従って、特別活動の「実施上の留意点」(文部科学省, 2018a)として挙げられている「日頃の学習の成果を学校内外に公開し、発表することによって、学校に対する家庭や地域社会の理解と協力を促進する機会とすること」にも繋がった活動であったと考えられる。

その後の第3学年の「ダンス授業」においては、学習指導要領の内容に沿って、教員が、動きを高めるための「知識」や「技能」を指導し、グループごとに「行事ダンス」をベースにアレンジを加え、より自由度を増したオリジナルの作品づくりが行われ、学習内容の深化が見られた。この点においては、「行事ダンス」の創作・発表という学習経験が、「ダンス授業」の指導内容のより深い理解につながった事例であるといえる。

従って、これらA中学校の一連の取組は、「行

事ダンス」を「ダンス授業」の最終目標としての発表の場とするのではなく、第1学年・第2学年の授業の学習成果を保証しつつ、あくまで特別活動の「学校行事：健康安全・体育的行事」のねらいに特化した取組とし、第3学年の「ダンス授業」においては、「行事ダンス」を生かしながらも体育分野の「ダンス」領域の指導内容が担保されていた。このようなA中学校の取組事例は、平成29年告示の学習指導要領で目指されている、各教科の「見方・考え方」を活用した資質・能力の育成や、カリキュラム・マネジメントの推進に沿ったものであり、教科「保健体育」と特別活動「学校行事：健康安全・体育的行事」の接続のモデルケースとして提示できると考えられる。

A中学校の保健体育科教員が挙げる課題としては、第3学年のダンス実行委員の取組が女子中心となっていることが挙げられた。この課題については、各学年の「ダンス授業」を男女共修で実施し、男女それぞれの良さを生かし、認め合う活動を授業内で積極的に行っていくことが必要であると考えられる。また、体育大会前までの「ダンス」の授業では、ダンス実行委員からダンスの振付を覚えることが主となり、ダンス実行委員とその他の生徒との双方向のやり取りが生まれていないことが挙げられた。その対策としては、例えばICTを用いた反転授業を実施し、効率よく「行事ダンス」を習得する工夫をすることが一解決策として考えられる。同時に、ダンス実行委員をスモールティーチャーとするグループ学習の実践等、平成29年告示の学習指導要領で示された「主体的、対話的で深い学び」の実現に向け、「共生」の視点を重視し、全員で取り組める活動をより一層工夫することが必要である。また、「ダンス」領域の授業時間数がさらに必要だと感じる一方で、現状でも各学年12時間配当することで、「球技」等の他の領域の時間数の制限が出てきてしまっていることも問題点として述べられていた。これらに関しては、保健体育科の年間指導計画のさらなる検討と、さらに教科「保健体育」に留まらず、各教

科と「総合的な学習の時間」「特別活動」「道徳」の接続とを検討するためのカリキュラム・マネジメントを実施することが重要であると考えられる。

今後は、各学校の現状に合わせた取組の参考となるよう、様々な取組事例を収集し、各事例の利点と課題を明確にすることが重要であると考えられる。教科活動と特別活動の取組の接続が強化され、学校教育が子ども達の健全なる育成により一層寄与できるよう、研究・教育実践を重ねていく必要があると考える。

## 文献

青木恵子 (2012) 小学校体育における表現運動の意義：授業と運動会集団演技との不連続性に着目して。奈良女子大学スポーツ科学研究, 14: 67-72.

茅野理子 (2017) 表現運動の指導実践を促す大学時履修内容の検討－小学校教科「体育 A」3回の実践から－。宇都宮大学教育学部教育実践紀要, 第3号: 485-488.

藤井敬子 (2017) 必修化後の全国実施状況調査(柔道・ダンス), 平成29年スポーツ庁委託武道等指導充実・資質向上支援事業, 武道等指導推進事業(武道等の指導成果の検証)「柔道・ダンスの指導状況調査と課題解決の為の指導のあり方」調査。

梶ちか子 (2017) 地域指導者派遣事業を活用した授業サポート－各中学校の実態に応じたダンス授業の実践－。女子体育, 59(6・7): 22-27.

新田良子・千住真智子 (1995) 運動会における表現運動に関する一考察－指導者の立場から－。大阪教育大学紀要 第IV部門, 44(1): 61-73.

三浦弓杖 (1984) 舞踊教師は体育教師か。体育の科学, 34: 37.

文部科学省 (2013) 第2節「表現運動系およびダンス」の具体的な指導内容。学校体育実技指導資料第9集 表現運動系およびダンス指導の手引き。東洋館出版社, pp. 10-20.

文部科学省 (2016a) 特別活動ワーキンググループにおける審議の取りまとめ (中央教育審議会報告)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/066/sonota/\\_icsFiles/afiedfile/2016/09/12/1377088\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/066/sonota/_icsFiles/afiedfile/2016/09/12/1377088_1.pdf)

文部科学省 (2016b) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (中央教育審議会答申)

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/\\_icsFiles/afiedfile/2017/01/10/1380902\\_0.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afiedfile/2017/01/10/1380902_0.pdf)

文部科学省 (2018a) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 特別活動編。東山書房。

文部科学省 (2018b) 中学校学習指導要領 (平成29年告示) 保健体育編。東山書房。

中村恭子 (2009) 中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容－平成19年度, 20年度, 21年度および24年度の年次推移から－。日本女子体育連盟学術研究, 26: 1-16.

沖本由佳里 (2016) 第2章 必修教科等の研究7 保健体育 思考力・判断力・表現力の育成を目指した保健体育科の授業開発－ダンス領域における「よい動き」の可視化と自己表現力の向上を目指して－。滋賀大学教育学部附属中学校研究紀要, 第58集: 78-83.

友添秀則 (2017) 学習指導要領の改訂とこれからの保健体育。中学校保健体育科ニュース, 2: 2-5.

薄井洋子・任暁晨・柳田恵梨奈・佐藤克美・渡部信一 (2017) 保健体育科教育のダンス教育に対する意識調査。教育情報学研究, 16: 69-75.

吉川京子・堀寛子 (1993) 小学校における運動会での発表に向けた表現運動の授業実践研究－児童の授業に対する評価による分析－。金沢大学教育学部教科教育研究, 97-111.